

寄附のご案内

ご寄附をいただいた寄附金は、大学が行う事業の一層の充実のための資金とさせていただきます。
ご寄附いただく個人、法人、団体等が使途を希望される場合は、そのご意向に沿って有効に活用させていただきます。
皆様の格別のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。



QRで確認

● 寄附の目的

- (1) 教育、研究活動、地域貢献活動の充実
- (2) 学生支援の充実
- (3) 施設・設備の整備
- (4) その他大学運営の向上

● 寄附の方法

インターネットからのお手続き

決済方法は、クレジットカード、コンビニエンスストア、Pay-easyの中から選択できます。

書面によるお手続き

所定の様式によりお申し込みの上、本学から送付する書類に基づきお振込みください。

福知山市のふるさと納税による寄附

設置団体である福知山市のふるさと納税制度の区分には「福知山公立大学の教育研究環境の整備や地域課題の解決等に向けた研究活動、学生への奨学金事業への寄附」が設けられています。寄附をされた方には、金額に応じて福知山市の特産品の中から希望されるお礼品が贈呈されます。



QRで確認

古本募金(きしゃぼん)による寄附

読み終えた本・DVD等をご提供いただき、その査定金額が福知山公立大学に寄附される制度です。



QRで確認

ー寄附の方法ー

宅配便によるご寄附

ご指定の時間にご自宅まで宅配業者が受け取りに伺います(5点以上で送料無料)。

回収ボックスのご利用

学内または福知山市役所(1階ロビー)に設置している回収ボックスに入れてください。

NEW FACE どうぞよろしく! ● 新任教員紹介



垣内 康宏 教授 KAKIUCHI, Yasuhiro

中丹西保健所勤務(2015年度の1年間)以来、3年ぶりに福知山に戻ってまいりました。医療・福祉分野での産学公連携推進に尽力したいと思います。

専門分野 法医学、公衆衛生学

現在の研究テーマ

- 家庭内の不慮の事故(転倒・転落、入浴中溺死等)に関する疫学研究



亀井 省吾 教授 KAMEI, Shogo

福知山の地に学ばせて頂きながら、地域における次世代の担い手を育成したいと考えております。どうぞよろしくお願い致します。

専門分野 経営学、人間情報学

現在の研究テーマ

- 企業組織の持続的成長のあり方
- 集团的課題解決における集合知発揮要因の研究
- 組織間ネットワーク・ダイナミクスの考察
- 共同開発現場における身体知移転プロセス態様



倉本 到 教授 KURAMOTO, Itaru

現在福知山市内に単身赴任中。もし街中のバーや居酒屋でひとりで飲んでいるところを見かけたら、ぜひお声がけください!

専門分野 情報学

現在の研究テーマ

- ロボットによる「おもてなし」感に代表される感性的価値の提供
- 日常作業環境の意欲を維持向上するゲーミフィケーション
- 擬人化エージェントのデザインと対話円滑化との関係



鄭 年皓 教授 JUNG, Nyunho

韓国釜山生まれで、ソウル育ちです。福知山には、微力でありながらも、少しでも貢献できるように、精一杯頑張ります。

専門分野 経営科学、経営管理論

現在の研究テーマ

- 新製品開発とその組織
- 組織活性化
- 組織におけるコミュニケーション・ネットワーク
- 技術革新と組織変革を中心としたイノベーション
- モノづくりとSCM(Supply Chain Management)を中心とした組織間関係
- 経営情報学的ネットワーク



前田 一貴 講師 MAEDA, Kazuki

札幌出身で、地元を離れて以来、日本海側に住むのは久しぶりです。ゆったりと周辺を自転車ですら、様々な発見のある毎日です。

専門分野 応用数学、離散可積分系、数値解析

現在の研究テーマ

- 直交関数系に付随して現れる離散可積分系の理論・応用研究
- 箱玉系をはじめとする超離散可積分系の研究

The University of Fukuchiyama PRESS 2019 December Vol.02

発行：公立大学法人 福知山公立大学

皆様の忌憚のないご意見をお寄せください。
お待ちしております。
ご連絡は右記までお願いします。

● ご意見、ご感想は
〒620-0886 京都府福知山市字堀3370 福知山公立大学 事務局
Tel. 0773-24-7100 Fax. 0773-24-7170
E-mail info@fukuchiyama.ac.jp



<https://www.fukuchiyama.ac.jp>

The University of Fukuchiyama PRESS

福知山公立大学
The University of Fukuchiyama

2019.12

● 福知山公立大学 広報誌



福知山市夜久野町・玄武岩公園

対談インタビュー have a talk

情報学部情報学科が 2020年に誕生。

2020年、福知山公立大学の新しい学部として情報学部情報学科を開設します。めざすのは、私たちの生活に欠かすことのできないものとなった「情報技術」を活用し、地域の人々の暮らしや、地域振興に貢献



インタビュー
荻野 美代子

できる「人財」の育成です。巻頭特集として、今年(2019年)から同学部の設置準備室に所属し、開設準備を進めている倉本到教授、前田一貴講師のお二人に、情報学部の特徴などについて伺いました。

1年次から地域と連携した 課題解決型学習に取り組み、実践力を育む

——学部の特徴について教えてください。

前田 プログラミングなど情報技術を学ぶのはもちろんですが、重視しているのはコンピュータの知識・技術を「何に使うか」といった視点です。私たちの日常生活や地域の社会活動にどのように活かせるかを常に意識し、実社会の課題やニーズに即して、実践的に学んでいきます。

倉本 カリキュラムとしては、1年次より地域と連携した課題解決型学習(PBL)を展開します。これは地域の企業や行政などから課題をいただき、その解決に向けてプロジェクトに取り組むというもの。高年次で行われることが多いPBLを1年次から体験できるのが、大きな特色となっています。

前田 PBLの具体的な中身についてはこれから詰めることとなりますが、福知山市という街のキーワードである観光、農業、工業、伝統産業をはじめ、様々な分野との連携が考えられます。

倉本 私の専門分野に、ロボットと人間のコミュニケーションを追究する「擬人化エージェントのデザインと対話円滑化との関係」があります。その技術の観光分野への応用として、例えば外国人観光客を対象とした観光案内ロボットを設置するといったことも考えられるでしょう。

記者会見を行いました



2019年11月25日(月)、情報学部の設置認可を受け、記者会見が福知山市と共同で実施されました。情報学部長に就任予定の西田豊明氏は「持続可能で活力ある地域社会づくりに貢献できる多様な人財を養成するため、帰納的学習や課題解決型学習を用いたアクティブラーニング、3つのトラック(専門領域)など、特色を持つ学習プログラムを提供する」と述べました。

——実践的なPBLに1年次という早い段階から 取り組む狙いは？

前田 ロボットやゲームなど、最初に「情報技術の世界でできること」を見せます。そして、その技術を使った応用の分野をPBLで体験することで、自分がこれから学ぶ専門分野の知識や技術が、世の中にどのように活用されているのかを比較的早い段階から知ることができます。

倉本 自分の手を動かし、何かを作り、完成する体験は単純に楽しいです。1年次だと大きな成果が得られるようなものは作れないかもしれませんが、与えられた問題を解決する瞬間にも立ち会えるでしょう。それらの体験を通して「より複雑な動きや機能を出すには〇〇の知識が必要だ」と自分の足りないところが見え、それが2年次以降の学習意欲にもつながっていきます。

前田 一貴 講師

京都大学大学院情報学研究所数理工学専攻博士後期課程修了。日本学術振興会特別研究員、高崎経済大学経済学部非常勤講師、理化学研究所理論科学連携研究推進グループ(ITHES)特別研究員、関西学院大学理工学部助教を経て、2019年より現職。専門分野は応用数学、離散可積分系、数値解析。



前田 もちろん、実践するのに最低限必要な知識はありますので、基礎のコンピュータプログラミングや数学といった科目は1年次からしっかりと指導します。

倉本 また、モノづくりに用いる既存のセンサーやプログラムにはいいものがたくさんあるので、1年次でもそれなりに動くものは作れます。ただ、経験を重ねていくと「ここを違ったように動かしたい」など、必要に応じてカスタマイズしたくなり、そのためには論理的に仕組みや構造を知らなければなりません。そうした意欲や問題意識を持ちながら、応用に必要な高度な専門知識を2年次以降に学んでいくわけです。

失敗を恐れず主体的に行動し、 地域の課題に取り組む中で専門性を高める

——具体的なカリキュラムやめざす資格について 教えてください。

前田 人間・社会が関わる様々な領域における情報技術について学ぶ「人間・社会情報学」、データ解析やその活用を身につける「データサイエンス」、情報システムの構築について主に学ぶ「ICT」の3領域を用意しています。各領域は横断的に履修することが可能で、目的や関心にあわせて幅広く学修することができます。

倉本 入学前には「自分は何がしたいかわからない」という人もいますが、3つの領域を軸に自身の関心を探りつつ、進むべき方向性を探るといった学びも可能です。またPBLなどのプロジェクトを通じて、例えば「フィールドワークで行ったアンケート調査のデータ処理が必要なので、「データ分析と意思決定」を履修する」といった感じに必要なスキルも見えてくるので、そうしたニーズにあわせてカリキュラムを組めるのも魅力だと思います。

前田 資格に関しては、情報処理技術者試験をはじめ、統計検定やJDLAディープラーニング検定・資格などの

倉本 到 教授

大阪大学大学院基礎工学研究科情報数理系専攻博士後期課程修了。2001年、京都工芸繊維大学助手。同大学助教、准教授を経て、2017年大阪大学基礎工学部特任准教授。2019年より現職。専門は情報学で、ロボットの感性的価値や人とロボットのより良いコミュニケーションの在り方などについての研究を手掛ける。



取得がめざせます。プログラミング言語は1つ覚えると応用が利くので、Python(パイソン)を中心に必要に応じてその他の言語も習得していきます。

倉本 本学部のカリキュラムを履修すれば、自然と情報処理技術者試験に必要な知見は養われますので、無理なく資格を取得できると思います。それ以外の資格取得のサポートも行いますので、意欲のある学生はどんどんチャレンジしてほしいですね。

——どういった学生さんに 期待しますか？

前田 私の専門の数学は論理的な積み上げが重要で、突き詰めて考える姿勢が求められますが、一方で考えているだけでアウト



プットしないと前には進みません。特に学生時代にはいくらかでも失敗できるので、主体的に考え、どんどん行動してくれる学生に期待します。

倉本 前田先生がおっしゃったように、多少失敗してもいいから、まずは行動してくれる人の方がカリキュラム的にも適応できるでしょう。情報技術の専門性を極める一握りのスペシャリストをめざすというよりは、世の中の問題に対して最先端のツールを使って解決に導く提案ができ、そうした専門家と一般の人を橋渡しできるような“人財”を育てたいです。

——最後に、地域との連携についてメッセージを いただけますでしょうか。

前田 情報技術は教育分野への活用も進んでいます。例えば、ICT(情報通信技術)を活用した数学に関する教育を近隣の小中学校で行うといったことも検討しています。学生による出張授業のようなものも実現してみたいですね。

倉本 来年度から始まる本学部のPBLでは、例えば農業分野だと虫を駆除するセンサーの開発など、「技術的にどうやったらいいのかわからないこと」を学生も含め、みんなで取り組んでいければと考えています。ですので、地域の皆さんの課題や悩みをどんどん投げかけてください。その課題解決に向けての活動が地域貢献の役割を果たし、学生たちの成長にもつながっていくと信じています。



情報学部開設記念 フォーラムを開催

2019年12月1日(日)、福知山公立大学情報学部開設記念フォーラムを市民交流プラザふくちやまで開催しました。(詳細はP5へ)



エレクトロニクスを駆使して、地域に貢献する

地域経営学部レポート

地域経営学部
神谷 達夫 教授

ビッグデータによる観光者の行動分析

信号処理、コンピュータハードウェア・ソフトウェアなどが専門分野で、これまでに地域と連携した様々な活動に取り組んで来ました。例えば、福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町から成る、京都府北部地域連携都市圏振興社（通称：海の京都DMO）の地域で得られた、Wi-Fiパケットセンサーのログデータにより観光者の行動を分析しました。Wi-Fiパケットセンサーはスマートフォンなどの通信機器の情報から、当該エリア内の人の動きを観測するというセンサーシステムです。今後は分析したデータを観光振興に活用できればと考えています。その他、地元企業との共同による風力発電システムの開発・販売、AIを用いた農作物の等級判別システムの開発など、「研究成果を地域の企業活動に役立てる」ことを目標に、様々なプロジェクトを手がけています。



先端のデジタル機器を用いて取り組む、夜久野町のデジタルアーカイブ化活動

1年次のゼミでは、福知山市夜久野町のデジタルアーカイブ化の活動に取り組んでいます。昨年度（2018年度）は、夜久野町のデジタルアーカイブのサイト開設を目標に、その素材集めとして、夜久野高原一帯に点在している八十八か所石仏を取材しました。デジタル一眼レフカメラや360度カメラなどを駆使しながら画像や動画を撮影し、その一部をYouTubeにアップしました。サイトを開設するところまではできなかったのですが、今年度中にそれを実現し、今後はそのサイトに新しい素材をどんどんアップしていく予定です。また、デジタルアーカイブ化の一環として、夜久野町に関連する言葉をウィキペディアタウンに掲載する活動にも学生たちが挑戦しています（※詳細は次ページ参照）。これらの活動を通して、夜久野町をはじめとする福知山市一帯の地域活性化に貢献していければと思います。



2018年度は、夜久野高原の八十八か所石仏でフィールドワークを行い、360度カメラなどの最新機器で取材をしました。

お世話になっている福知山市・夜久野町の地域活性化に貢献したい！

夜久野町ならではのモノを取り上げ、インターネット上で紹介する

1年次の神谷ゼミのテーマである「夜久野町のデジタルアーカイブ化活動」の一環として、ウィキペディア（※インターネットの百科事典）の記事作成に取り組みました。具体的には、まだウィキペディアに掲載されていない、夜久野町ならではのモノやイベントを取り上げ、記事にします。6、7人のグループに分かれ、各班がテーマを決めるわけですが、私たちの班が着目したのは「夜久野そば」です。

やくの農業振興団の会長さんに夜久野そばについてインタビュー

まずは夜久野そばのことを詳しく調べようと現地に出かけ、夜久野そばを作っている「やくの農業振興団」会長の中島さんにインタビューを行いました。衰退ぎみになっていた夜久野そばを復活させる経緯や、商品の特徴など（※コラム参照）をヒアリングしました。夜久野そばについての知識を深められるとともに、作り手である地元の人々の想いなども伺うことができました。



コラム

夜久野そば

夜久野高原には、京都府唯一の火山である田倉山があります。そこに広がる、火山灰からなる大地で作られる「夜久野そば」。昼夜の寒暖差が大きく、霧が多く発生する当地で育った良質なそばの味は古くから有名で、50年ほど前から多くの農家が生産していました。夜久野町には製麺業者や製粉業者がなく、玄そば（殻付きのそば）で出荷していましたが、収益性が低く、次第に衰退していききました。そんな中、地域振興の一環として「もう一回そばを盛り上げていこう」という声上がり、やくの農業振興団が中心となって十数年前から本格的なそば作りを再開し、現在に至っています。



頑張る福公大生



地域経営学部地域経営学科1年
難波 晃司さん
京都府立木津高等学校出身

日頃から優しくしていただいている福知山の人々に恩返しをしたい！

今回取材をさせていただいた中島会長もそうでしたが、大学進学後、福知山で暮らし始めてから日々感じるのが、地域の人たちの優しさや、温かさです。ご近所の方が日常的に声をかけてくださったり、お菓子をくださったり、日頃からとても良くしていただいています。その中で福知山公立大学への期待もひしひしと感ずるので、それに応えられるよう、今後の研究活動などを通して今以上に地域に貢献していきたいです。



住民の声

夜久野みらいまちづくり協議会
夜久 早百合さん



学生さんたちのおかげで元気をいただいています！

夜久野みらいまちづくり協議会の中の「定住・交流促進部会」のスタッフとして活動しています。福公大の学生さんがフィールドワークで夜久野町に来られた際に、公民館で料理をふるまったり、発表を拝見させていただいたりする中で、交流を深めさせていただきました。少子高齢化が進む集落ですので、若い人たちが来てくださり、触れ合うだけでも元気をもらえます。今後もこういった活動を積極的に行っていただきたいですね。

地域の空き家問題へのアプローチにも期待

現在、定住・交流促進部会で特に議題に上がっているのが増え続ける空き家問題です。実態把握に向けた調査活動を進めていますが、例えば、福公大の皆さんの協力のもと情報のデータベース化、賃貸ニーズとマッチングさせるサイト・アプリなどが実現できるとうれしいですね。また、マンションなどに比べ家賃も格安になるので、社会人の方はもちろん、学生さんたちの移住にも期待しています。

FUKUCHIYAMA NEWS & TOPICS

情報学部開設記念フォーラムを開催しました



フォーラムの様子



佐和隆光氏



石黒浩氏

2019年12月1日(日)、福知山公立大学情報学部開設記念フォーラムを市民交流プラザふくちやまで開催しました。

井口学長は開会挨拶で「他大学にはない特色のある情報学部になると思う。情報学部の開設を機に、市民の皆さんが「福知山に公立大学があって本当に良かった」と言ってもらえる大学になるよう努力することの決意を表明する」と述べました。

基調講演では、佐和隆光公益財団法人国際高等研究所副所長より『第4次産業革命とは何か』をテーマにご講演いただきました。現在進行中の第4次産業革命ではIoTやビッグデータ、AIの技術革新が進んでおり「AIは日本全体の約半分もの労働を引き受けてくれるありがたいものである。将来、人々はもっと私的な活動に時間と能力を割くという方向に向かってほしい」と語りました。

招待講演では、石黒浩大阪大学大学院基礎工学研究科教授より『人と関わるロボットと未来社会』をテーマにご講演いただきました。「人間型ロボットに支援される『ロボット社会』がやってくる。特に地方においてロボットは大きな役割を担う」とし、車の自動運転などが挙げられました。

「第4回 福桔祭」を福知山駅前で開催しました



多くの参加者で賑わう会場(福知山駅北公園)



ステージイベント



学生による模擬店

2019年10月26日(土)に福知山公立大学の大学祭「第4回 福桔祭」を開催しました。大学祭実行委員会の「地域に近い場所で多くの方々に大学の活力を感じてほしい」との思いにより、昨年からキャンパスを離れ福知山駅前で開催しています。イベント当日は多数の来場者の中、全国のお土産やタピオカジュースの販売、子どもが遊べるスーパーボールや射的など多くの模擬店が並びました。会場の中央では、福知山市内の小学生が店主になり、実際に物の売り買いを通じてお金の大切さを学ぶ「こどもマーケット」を開催しました。

メインステージではサークルの演奏やダンス、ゲストミュージシャンによる演奏が行われました。最後まで熱いパフォーマンスが披露され、イベントは盛況のうちに終了しました。今回も多くの皆様から協賛をいただきました。ありがとうございました。

総務省の「関係人口創出・拡大事業」モデル事業に取り組んでいます

本学では、近隣市町(福知山市・朝来市・丹波市)の協力を経て、地域外の者が関係人口として、地域と継続的なつながりを持つ機会・きっかけの提供に取り組む地方公共団体を支援する「総務省関係人口創出・拡大事業」モデル事業を展開しています。

高等学校卒業後に大都市周辺に就職・進学した地縁のある若者を中心的なターゲットとして、地域の元気を創出し、若者がUターンをしようとする地域づくりにつなげる基盤を造る様々なプログラムを実施しています。

また、都市部に進学した大学生を対象に、地元の農家や企業へのワーキングホリデー方式で労働を体験する「移住体験ツアー」、地域の文化や産業等を再発見する「ふるさと再発見ツアー」、北近畿地域出身の大学生と中高生によるワークショップ「ふくちやま未来会議」、郷土意識や観光客へのアンケート調査等様々な取り組みを実施しています。



ふくちやま未来会議



移住体験ツアー



ふるさと再発見ツアー

学生が高齢者の健康と医療に関する研究を行いました

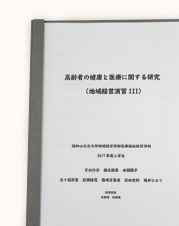
医療福祉経営学科の学生が、前期高齢者(65～74歳)への地域医療に着目し、福知山市内に住む高齢者に関する健康と運動意識、服薬、通院行動などについて研究しました。健康寿命や日々の満足度と生活習慣や環境等との関係性を明らかにすることで、高齢者の健康づくりのきっかけとなる情報提供を行えればと考えました。

「平成の大合併」では、それまで「自治を敷いていた」市町村が1つにまとめられました。インフラ整備などについては、1つの自治体の中でも、それら地域間に差異があると報告されています。そこで、健康に対する住民の意識にも同様の違いがあるかもしれないと考え、アンケート調査を行いました。対象は、福知山市内の「南陵」、「三和」、「夜久野」と「大江」の4つの地域です。発送した600通の質問紙に対し、229名の方から回答をいただきました。得られたデータを分析した結果、地域によって運動意識に有意差があることがわかりました。

この調査研究は、福知山市と住民の皆様のご理解とご協力を得て実現できました。学生は、分析結果を報告書にまとめて福知山市に提出するとともに、10月に高知県で行われた第78回日本公衆衛生学会でも発表しました。



日本公衆衛生学会総会に参加



分析結果をまとめた報告書